

1. FD シンポジウムの基本情報

平成 26 年度授業改善シンポジウムは 2014 年 12 月 11 日 12 時 50 分から 14 時 10 分に教育学部本館 2 階会議室にて開かれた。

本企画は、シンポジウムの開催によって授業に関する優れた実践知を共有化し、今後の授業改善を促進することをねらいとするものであった。シンポジストは、平成 25 年度「授業成果報告書」や平成 26 年度前期授業アンケート等に基づき、FD ワーキング委員が選定されている。今年度は中期目標及び平成 26 年度計画にもある「授業時間外学習の促進」について工夫している先生方が話題提供を行った。

司会は池野修先生、話題提供者として教育企画室の山田剛史先生、教育学部の田中雅人先生、荻田知則先生がそれぞれ発表を行った。

2. FD シンポジウムの内容及び自らの授業改善案

FD シンポジウムでは最初に、教育企画室の山田剛史先生から「授業時間外学習の促進」について話題提供をしていただき、授業時間外学習の促進の意図やそのあり方について理解することができた。

続いて田中雅人先生、荻田知則先生がその実践についてお話しいただいた。

田中雅人先生のお話では授業時間外学習の時間が多くことに感心した。そのための工夫として Moodle を使った事前学習などの工夫が行われていた。それを踏まえた授業を行うことにより、授業内での学習が促進されることが理解できた。

荻田知則先生のお話では映像などを効果的に用いていることがあり、授業内で行うことを授業前に済ませてしまい、その分授業を充実させていることが印象的であった。

また質疑応答であった、欧米と違い、そもそもの授業履修時間が違うため、各授業の授業時間外学習が増えると学生の学習時間のバランスをどうとるのか、といった疑問も考え

させられるものであった。

以上を踏まえてここからは自らの授業改善案を述べていきたい。

まずは筆者がこれまで行ってきた授業時間外学習について振り返りたい。これまで筆者の授業時間外学習については授業について振り返る課題を課し、それを学生に行ってもらおうという復習や授業を深めることが主となるものであった。このような課題に関して学生からは「授業の振り返りができる」といった評価する感想を得ていた。

これらは Web を用いて行っており、課題の確認や整理が行いやすく、このような Web の活用はシンポジウムの中でも積極的に活用されていた。このような点は同様のものであり、今後も発展させていく必要があると言えるだろう。Web をさらに活用することで、効率的な授業時間外学習を学生が行えることができると考える。

しかし、シンポジウムに参加してそういった復習に加えて、事前学習においても授業時間外学習の必要性を改めて認識できた。今後は予習や授業準備を含めた授業時間外学習を行うことが求められるだろう。既に配布したプリントを熟読するよう、といった程度のことは行っていたが、こういったことをさらに発展させていく必要があるだろう。

具体的には現在、ミニシンポジウムなど学生同士が意見を交換する授業の際は、資料調べなどの課題を課しているが、そういったことをさらに拡大し、学生に事前に授業内容に関することについて調べるよう課題を課し、事前に学生が自らの考えを持って授業に臨んでいくことができるようにすることが重要と考える。そのことによって、学生同士の議論も活発となり、より深い学習を行うことが可能となると考える。

しかし、質疑応答であった各授業の授業時間外学習と学生の学習時間のバランスをどうとるのか、といったことは課題であると言えるだろう。